

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学ⅡA	
科目基礎情報							
科目番号		0024		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 4	
開設学科		機械システム工学科		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		4	
教科書/教材		新 微分積分I 改訂版 高遠 節夫 監修 大日本図書、新 微分積分I 問題集 改訂版 高遠 節夫 監修 大日本図書					
担当教員		飯田 毅士					
到達目標							
①基本的な極限計算ができる。基本的な関数の微分ができる。 ②簡単な関数のグラフの概形が描ける。 ③置換積分・部分積分を利用する積分計算ができる。 ④積分を利用して面積、長さ、体積などを計算することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		微分積分の基本的な概念、基本的な関数の微分積分とその応用について学習する。					
授業の進め方・方法		中間試験と期末試験を実施する。 定期試験の成績を70%、課題・小テスト・授業態度等の成績を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
注意点		予習・復習を行い、基本的な事柄を理解し、教科書・問題集の問題は自分で解けるようにすること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数		関数とその性質、関数の極限		
		2週	関数の極限と導関数		微分係数、導関数		
		3週	関数の極限と導関数		導関数の性質		
		4週	関数の極限と導関数		三角関数の導関数、指数関数と対数関数の導関数		
		5週	関数の極限と導関数		ネイピアの数 e の性質		
		6週	いろいろな関数の導関数		合成関数の導関数、対数関数の性質を用いた微分法		
		7週	いろいろな関数の導関数		逆関数の導関数、逆三角関数とその導関数		
		8週	いろいろな関数の導関数		関数の連続		
	2ndQ	9週	関数の変動		接線と法線、関数の増減		
		10週	関数の変動		極大と極小、関数の最大・最小		
		11週	関数の変動		不定形の極限		
		12週	いろいろな応用		高次導関数、曲線の凹凸、いろいろな関数のグラフ		
		13週	いろいろな応用		媒介変数表示と微分法		
		14週	いろいろな応用		速度と加速度、平均値の定理		
		15週	いろいろな応用		問題演習		
		16週					
後期	3rdQ	1週	不定積分と定積分		不定積分		
		2週	不定積分と定積分		定積分の定義		
		3週	不定積分と定積分		微分積分学の基本定理、定積分の計算		
		4週	不定積分と定積分		いろいろな不定積分の公式		
		5週	積分の計算		置換積分法、部分積分法		
		6週	積分の計算		置換積分法・部分積分法の応用		
		7週	積分の計算		いろいろな関数の積分		
		8週	積分の計算		問題演習		
	4thQ	9週	面積・曲線の長さ・体積		図形の面積、曲線の長さ		
		10週	面積・曲線の長さ・体積		立体の体積		
		11週	いろいろな応用		媒介変数表示による図形		
		12週	いろいろな応用		極座標による図形		
		13週	いろいろな応用		広義積分		
		14週	いろいろな応用		変化率と積分		
		15週	いろいろな応用		問題演習		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。		3	前7

				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	後2
				不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	前1
				簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	前1,前11
				微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	前2,前3,前8
				積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	前3
				合成関数の導関数を求めることができる。	3	前6
				三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	前4,前5
				逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	前7
				関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	前9,前10
				極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	前10
				簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	前9
				2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	前11,前12
				関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	前13
				不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	後1
				置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	後5,後6
				定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	後2,後3,後13
				分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	後4,後7
				簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	後9,後11,後12
				簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	後9,後11,後12
				簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	後10,後11,後12

評価割合

	試験	課題等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0